

6年 少子高齢化の今、ほくたち・わたしたちにできること

5月～2月
(45時間)

1 ねらい

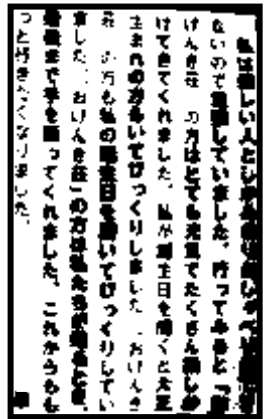
今、日本は急速な少子高齢化が進んでいる。そして、核家族化の影響で人とのつながりが希薄であると感じる。この子たちに何を学ばせたいか、何を体験させたいかを考えた。結果、「ふれあい」だった。これからは間違いなく少子高齢化の時代である。これから求められる資質は、いかに高齢者と親密にふれあうことができるかではないかと考えた。

そこで、高齢者や園児とのふれあいの場を多く設定し、ふれあいの素晴らしさ、ふれあい方について学んでほしいと願い実践した。

2 実践の概要

おげんき荘にいる方々は、耳の不自由な方、手足の自由がきかない方など様々である。児童が普段通りのしゃべり方をしてもお年寄りの方にはほとんど内容を理解してもらえなかった。事前の話し合いがなかったためにおげんき荘のスタッフが全てとり行ってくれた。

児童Bがある日、「おげんき荘の方たちに運動会にきてもらいたい」と言ってきた。そこでクラスで手紙を書くことになった。当日は、数名のスタッフの方が見に来てくれた。



おげんき荘の方から頂いた手紙より

「おげんき荘のおじいさんおばあさんに招待状を書いたいただきありがとうございました。おげんき荘を利用している方は足の悪い方が多くいます。段差があったり、手すりのない場所は安定を保つことが困難です。なので残念ながら見に行くことができません。(中略)

みなさんが又、おげんき荘に来てくれるのを楽しみにしています。」

一人ひとりが「前回の反省を生かそう(受け身だったこと)」という気持ちが強かった。様々な案が出された。クイズ大会は、お年寄りの方にもわかってもらえるように歴史からの出題であった。しかし、やってみると「難しい」、「わからん」と率直な意見もいただき、困惑した様子も見られた。マッサージタイムはとても好評で、直接触れることの大切さを私も強く感じた。プレゼントは牛乳パックで作った簡単なペン立てであったがとても喜んでくださり、児童も笑みがこぼれた。児童の表情がとてもいきいきとしていた。



マッサージなので交流をふかめた第2回目



合奏やカルタ遊びなどで交流を深めた第3回目

自分たちで何かを企画、計画し、実行する達成感を感じることができたであろう。3学期にも訪問が待っている。中学生まで間もない児童に助言をいただけることを期待する。

3 実践を振り返って

訪問後に活動を検証する場面をもっと持ちたかった。また、児童の気持ちを揺さぶる場面を持ちたかった。しかし、様々な年代の人たちとのふれあいは財産になると信じている。